



DARLING

- side.H : 4 -



俺の気持ち
知ってる
クセに

誰かと寝たあと
そのままここに
来るなんて



アンタ
そういう
ひどいコト

よく
できるね







俺のオリジナル
メニューだよ
遥さんが試食
第一号！

…なんだソレ



俺が誰と寝ようと
知ったこっちゃねーけど
俺が好きだったって？



ずいぶん
おキレイな
恋愛してんだな

ホトケさんか
テメーは



…気にしないよ

今はね





『遙…
俺は知ってる』

勘弁して
くれないか…
頼む…

…もう



どんなに
待っても…
どんな相手でも…



『君が特定の相手を
作らないのも』

『俺を恐れるのも』



その想いには
応えられない
理由があるんだ



『本気に
なるのが
怖いからだ』



だから……

頼む……
もう俺のことは

ほうっておいて
くれ……

——俺がまだ

シカゴの病院で
研修医をしてた頃



当時の俺は研修医としては
異例の臨床数をこなし

怖いもの知らずの
天才と呼ばれていた

ハルカお前なあゝ
先輩をさしおいて
派手な手術ばっか
やりやがって…

患者が俺を
指名するんだ

実力の差だな
ジェイク

言うねゝ
日本人はもっと
おしとやかだって
聞いたぜ？

出会った当初から
やたら俺にからんできた
1年先輩の男――

この男と俺は
深く愛し合ってた

何も不安なんて
なかった

学生時代から含めて
3年くらいは
経っていたと思う

時々ケンカもしたが
うまくいっていた
はずだった

——急に態度が
よそよそしくなり
俺からの連絡は全て
拒否された

待てよ
ジェイク

待って
くれ……

でもある時……
向こうが一カ月ほど
ロスの病院に研修で
行くことになって

シカゴに
帰ってきてから
全てが一変した

何か理由が
あるんだろう？

それだけでも
聞かせて
くれっ

